＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473100905
法人名	社会福祉法人　同塵会
事業所名	日限山ホーム
訪問調査日	平成　21　年　　1　月　27　日
評価確定日	平成　21　年　　3　月　　9　日
評価機関名	社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1473100905
法人名	社会福祉法人　同塵会
事業所名	日限山ホーム
所在地	神奈川県横浜市港南区日限山1-66-6 （電　話）045-825-6500

評価機関名	社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】（平成20年11月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17 年　3 月　1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	25　人	常勤　10 人，非常勤　14 人，常勤換算　16.5 人

（2）建物概要

建物構造	RC　造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	21,000　円		その他の経費（月額）	47,250　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　430,000　円）		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（4）利用者の概要（平成20年11月1日現在）

利用者人数		17 名	男性　3 名	女性	14 名
要介護1		1 名	要介護2	5	名
要介護3		8 名	要介護4	3	名
要介護5		0 名	要支援2	0	名
年齢	平均	85 歳	最低　73 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	長田病院、中村眼科医院、港南歯科クリニック、港南台ロイヤル歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆最寄り駅より徒歩7分程、住宅地の中に位置している。道路を隔てた向かいには地蔵尊、事業所の裏には公園が広がり、散歩や地域の方々との交流の場となっている。
◆地域の盆踊りへの参加、中学生の課外活動の受け入れ、地域のボランティアによる野菜づくりの指導や着物からの小物づくり、幼稚園や小学校の運動会への招待などを通し、地域の方々との交流をはかっている。
◆春の花見、夏祭り、クリスマス会は家族も参加して、利用者と家族がともに、ゆっくりと楽しく暮らせるように取り組んでいる。
◆法人内の事業所と連携し、職員研修を行い、資質向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の外部評価受審後、日々の申し送りの中で利用者の状態の変化などを伝達していたことを、カンファレンスを開催して全職員で話し合うようにした。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 外部評価の受審をカンファレンスの際に全職員に周知し、自己評価は常勤職員が各自作成し、管理者がまとめた。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 利用者、家族、地区連合自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所の管理者、職員の出席のもと、活動状況の報告、意見交換を行っている。地域の中学生の課外活動の受け入れが好評であったとの意見もあり、今後、学校をはじめ地域との交流を深めていく意向である。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 相談並びに苦情処理体制を重要事項説明書に明記し、意見箱を設置している。家族が話しやすい雰囲気を心がけ、家族の来訪時や家族参加の行事の際に、家族の意見等を聞くようにしている。寄せられた要望は記録し、カンファレンスで話し合い、対応している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会、老人会に加入している。近くの公園で開催される盆踊りへの参加や、中学生の課外活動の受け入れ、地域のボランティアによる野菜づくりの指導や着物からの小物づくり、幼稚園や小学校の運動会への招待などを通し、地域の方々との交流をはかっている。また、事業所周囲の清掃時などには、隣接するマンションの住民と挨拶を交わすようにしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間の尊厳を大切にし、ゆっくりと楽しく一緒に暮らせる事業所を目指して」という理念を開設当初に全職員で作成し、現在も引き継いでいる。地域活動への参加を通して、利用者が楽しみや生きがいを持てるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を玄関内の目につく所に掲示するとともに、理念に基づき、職員間で話し合い、利用者本人の意思を尊重し、「お互い様」を合い言葉に、日々のケアに取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入している。近くの公園で開催される盆踊りへの参加や、中学生の課外活動の受け入れ、地域のボランティアによる野菜づくりの指導や着物からの小物づくり、幼稚園や小学校の運動会への招待などを通し、地域の方々との交流をはかっている。また、事業所周囲の清掃時などには、隣接するマンションの住民と挨拶を交わすようにしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の受審をカンファレンスの際に全職員に周知し、自己評価は常勤職員が各自作成し、管理者がまとめた。前回の外部評価受審後、日々の申し送りの中で利用者の状態の変化などを伝達していたことを、カンファレンスを開催して全職員で話し合うようにした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地区連合自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所の管理者、職員の出席のもと、活動状況の報告、意見交換を行っている。地域の中学生の課外活動の受け入れが好評であったとの意見もあり、今後、学校をはじめ地域との交流を深めていく意向である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険をはじめ各種申請等で市へ出向いたり、市主催の感染症などの研修に参加している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、日頃の利用者の様子を報告している。毎月書面で、近況や健康状態、行事等の便りを添えて報告している。金銭管理は個人の「おこづかい帳」を来訪時に毎月確認してもらっている。体調の変化など緊急時は、その都度電話連絡をしている。職員の異動がある場合には、家族の来訪時に報告している。家族には、出来るだけ来訪してもらうよう促している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談並びに苦情処理体制を重要事項説明書に明記し、意見箱を設置している。家族が話しやすい雰囲気を心がけ、家族の来訪時や家族参加の行事の際に、家族の意見等を聞くようにしている。寄せられた要望は記録し、カンファレンスで話し合い、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他の事業所と連携して、職員の定着をはかっている。職員の異動がある場合は、利用者にさりげなく職員が変ったことを伝えている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に、希望に応じて参加している。外部研修では、感染症対策指導者研修、認知症介護実践研修などに参加している。研修受講後は、報告書を作成し、研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、研修に参加して地域の同業者と交流をはかっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談のうえ、入居前に自宅を訪問をしたり、事業所を見学してもらい、事業所の雰囲気を感じてもらっている。入居の際には、畳が好みの人は折りたたみの畳、マッサージ機や仏壇など馴染みの物を持ち込み、安心感を持ってもらうようにしている。本人が慣れるまでは、家族に頻繁に来訪してもらうよう依頼をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、「お互い様」の関係を築き、昔の体験を聞いたり、利用者からランチョンマットの刺繍など針仕事を教えてもらうなどしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人、家族から思いや意向等を聞き取っている。意思表示が困難な人には、日々の会話の中から本人の意向を把握するよう努め、記録している。把握した利用者一人ひとりの思いや意向等は、カンファレンスにて職員間で共有している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入居時のアセスメント表、ケアチェック表などを基に、家族、かかりつけ医と話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月ごとにカンファレンスで話し合い、介護計画の見直しを行っている。状況が安定している利用者は、6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。変化が生じた場合には、家族の意見を聞き、カンファレンスで話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設当初に、地域の住民を対象に、認知症に関する研修を開催した。また、家族に代わって、理・美容院、通院の付き添いなどを柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医での受診ができる。家族同伴で受診できるように家族に予約を取ってもらっているが、家族が同伴できない場合には、職員が付き添っている。受診結果は家族と職員間で情報交換をしている。協力医療機関の内科医の往診が週1回ある。緊急時には、家族に連絡をして、家族同伴で医療機関で診てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、入居後身体状況の低下にともない、事業所での生活が困難となりうることの説明を行い、特別養護老人ホームへの申し込みを行ってもらうように家族に説明をしている。職員間で、終末期について話し合っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、さりげない言葉かけや対応をするよう配慮している。個人情報の取り扱いについては、会議等で職員に周知徹底している。個人情報の記録等は鍵のかかるキャビネットに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、食事、おやつ、入浴、レクリエーションなど、希望に沿って支援している。訪問調査時に、朝のお茶や体操をしている時に居室で過ごしたり、居室で食事をとっている人がいた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に、利用者がテーブルを拭いたり、食器の片付けなど、本人が「できること」を行ってもらっている。訪問調査日の昼食では、静かな曲が流れ、利用者と職員が会話をしながら、食事を摂っている。苦手な食材がある場合には、別のメニューを用意するなど配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、入浴のない日は足浴を行っている。入浴を好まない場合には、本人の希望やタイミングに合わせたり、話題を変えて誘ったり、柚子湯を楽しんでもらうなどの工夫をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花や野菜の栽培、手芸、囲碁など、利用者一人ひとりの趣味や意向に合わせて、楽しみごとの機会をつくっている。訪問調査時には、テレビ体操やコーラスなどをして過ごしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所に隣接している公園への散歩を日常的に行っており、桜の木が多くあるので、お花見は恒例の行事としている。天気の良い日には、屋上へ出て日光浴するなどしている。弁当持参で、野庭中央公園に出かけることもある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の前の通りは、車の往来が激しく危険なため、玄関は施錠している。居室、ベランダに通じる出入り口は、施錠はしておらず、自由に出入りが出来るようになっている。訪問調査時に、玄関の方に行く利用者に、職員が見守りと声かけで対応していた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した利用者参加の訓練を年2回実施している。平成20年11月13日には夜間想定で行った。設備点検は定期的に実施している。非常用の飲料水、食品、備品を倉庫に保管している。隣接のマンション住民とは日頃より交流があり、非常時の協力について話し合っている。自治会からは防災地図をもらい、協力を得られるように話し合っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量・水分摂取量を個別の処遇チェック表に記載し、一日の総摂取量を把握している。食材配達の委託会社から、献立のカロリー量等の情報を提供してもらっている。水分はこまめに摂取するよう取り組んでいる。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入ると、左手にある飾り棚には利用者の作品が置かれ、居間と事務室の間にあるカウンターには職員が活けた生花、窓際には蘭など色とりどりの植木鉢が採光の優れた居間に彩りを添えている。共用空間は、清潔を保持しており、洗面所に紅茶を置いて、食事前に紅茶うがいと手洗いを励行している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具の持ち込みが可能なことをパンプレットに明記し、使い慣れた机、タンス、ソファーなどが持ち込まれ、それぞれ好みの部屋になっている。机の上には写真、人形などが置いてあり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	日限山ホーム
（ユニット名）	1階
所在地（県・市町村名）	横浜市港南区日限山一丁目66番6号
記入者名（管理者）	瀧本　幸子
記入日	平成　20　年　11　月　1　日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	まずは、ホーム内での生活を、穏やかに過ごしていただく事を一番に考えています。その中で、地域の活動に参加することにより生きがいや楽しみが増えていくこと目的として、合わせて理念と考えています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開所当初から「お互い様」を合い言葉にして、職員同士協力し合って入居者が穏やかに過ごしてもらえるようにしています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方々が、集う年3回の「観桜会」「納涼祭」「クリスマス忘年会」の際には、地域住民の方々、ボランティアの方々を招待して、地域に根ざして成り立っていることをお知らせしています。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のマンションの住民の方々、地域住民の方、民生委員の方々皆様と声をかけあい、一部の方は、花の様子を見に、ホーム内にちょくちょく来てくれます。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日限山地区で老人の方々が集う会合には、毎回参加しています。隣接している日限山公園で行われる盆踊りや幼稚園の運動会にも招待を受け、出席しています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現時点では、活動をしていないのが現状です。	○	業務内容を考え直して、地域に対して対応できる職員を養成して行きたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回2回目の自己評価、外部評価となるため、今回職員に対してこういう事を行っていると情報を流している状況です。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進運営会議において、自己評価、外部評価を行うことをお伝えしたところであり、これから意義について詰めて行くことになると思います。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現時点では行き来する機会は作っていません。	○	時間が作れる体制をつくり、区役所の担当者を情報交換する機会を作って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点では出来ていません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	現時点では出来ていませんが、現在、ホーム開所から4年目を迎え、介護福祉士の資格を取得するために勉強している職員が出てきており、今後関連法について考えて行く機会が出て来ると思います。	○	まずは、資料を確認して、職員に情報を伝えるようにしたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に、契約書、重要事項説明書の説明は行っています。契約以上に、家族との信頼関係を築けるよう入居後は、家族へホームでの利用者の状況、ホームの理念はよくお伝えしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内にも第三者評価委員を設けていますが、開所後ホーム内で家族との対応のみで友好な関係は出来ているとおもっています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が不安に感じることがある場合は、こまめに連絡を入れて、安心してもらうよう対応してます。また、ホームでの生活が慣れた後は、来訪時、状況を説明しています。現金についても支出があったときには説明を行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回、入居者、家族の方々が集まってイベントを行っています。その際に、ケアプランの説明を行い、意見要望を反映出来るようにしています。また、常に責任者は話しやすい状況を作り、気兼ねなく意見を言ってもらうように努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを開き、入居者の処遇以外にも意見を聞く機会を設け、職員間で対応できるものは、その場で対処しています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法的に定められている基準よりも多く人員を配置しています。また、職員から出勤時間の調整についても、出来ることは反映しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状は、退職する職員もなく、落ち着いた環境作りは出来ていると思います。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては、必要に応じて職員は参加しています。しかし、報告書を書いてもらっているのみで、発表の場は設けていません。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状はグループホーム協会に加入し、定期的に研修に参加しています。	○	近隣のグループホームとの交流を持つ機会を作っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人員配置を多くしているが、現状なかなか休み時間が作れない状況であります。休憩スペースがないため、目隠し用にスクリーンを購入しています。	○	職員の考えを聞き出し、妥協しあえる環境作りを作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人員の余剰はあるため、常勤職員は有給休暇を取りやすくしています。また、夜勤明け2日間は極力休めるよう勤務を組んで、健康管理が出来るようにしています。職員からの提案に対しては、すぐに出来ることは取り入れて実施するようにしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境に慣れるまでは、入居者本人の話をゆっくりと聞くように対応をしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が、ホームの職員を信頼して下さるまで、随時、入居者の方の状況を報告し、ホームとして受け入れていることを常に伝え、安心してもらうようにまずは行っています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方は、利用者本人をホームに入れてしまったことの、後悔があると思われるため、利用者の方が穏やかにホームで生活をされる状況をつくる事が大切だと思っています。そのことで家族には安心して利用して欲しいことを伝えています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、何度かホームの環境を見てもらい、既に入居者されてる方々と共に一時を過ごしてもらい、入居者本人が納得して入居することを家族の方には話してもらうよう事前に対応してもらっています。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	対等な立場として、集団、個々の際日常会話、身の上相談などをして信頼し会えるよう努めています。そのことにより入居者を職員が共に支え合う関係を築けるようになると思い、実践しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にも、職員として困っていることを伝え、現状一番良いと思っている対応を行っている事を理解してもらい、また、段々と老いていく入居者の方の状況を常に伝え、職員の苦労も分かっていただくようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	親子関係がうまくいっていない場合は、事前に訴えを職員が聞き出して不満を解消したり、家族が来訪時、職員が同席して入居者、家族が安心して会話が出来るように対応しています。あまり来訪されない家族については、状況変化が見られたときには、連絡をこまめにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者を訪ねてこられる方については、「いつでも来て下さい。」と声をかけています。特に、遠方に住まれている親族が来られたときには、職員が間に入り、近況を詳しく伝えるようにしています。	○	来訪される方が、家族の方が中心となるため、新しい人付き合いを作っていくことも考えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	穏やかな気持ちでホームでの生活が送れるように、食事の時には仲の良い方々が近くに座ってもらうなどの対応をしています。また、場に馴染まないときには、職員が孤立している方に声をかけ、話し(悩みや不満)を聞くようにしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近隣に住まれている家族の方が多く、顔を合わせることも良くあるため、退所後も友好な関係が築けるよう、特に入院時には迅速な対応を心がけています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で思いを上手く伝えられない方は、ゆっくりと話しを聞くようにしてしています。言いたいことは、ほぼ分かっているので、どう答えれば納得して落ち着いてもらえるか探りながら、対応しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	女性の方なら、家事を職員と一緒に行いながら、会話をすると、思い出話などで今まで知らなかった情報が得られることがあり、そのことを家族に確認すると、家族からも更なる情報が得られることあり、その人の人生感を役立てています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ないと決めつけるのではなく、何事も「どうですか。」と声をかけて自身が判断して参加してもらっています。その時の気分で普段行わないこともしてもらえることも多くあります。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	各々の入居者の方のその時点での対策はカンファレンスを行い実行していますが、長期的な介護計画の実施はしっかりと出来ていないのが現状です。	○	作った介護計画をいかに活用していくことを更に考え行かなければならないと思っています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな対策を行う際には、必ず家族には了承を得てから、介護計画や実行に移しています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、状況変化を記載しています。また、職員から責任者の方へ報告、提案があり、判断して家族連絡、職員への情報を伝達しています。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一番に考えているのは、入居者本人の状況変化によって、病院へ通院したり、気分転換を図れるような対応を素早く行えるようにしています。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日限山地区での集会には毎回参加しています。本を読むことを趣味としている方がいるため、近くの図書館へ本を借りることをしています。一緒に入居者の方と行くこともあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	一部の入居者の方は、提携病院（長田病院)のリハビリを受けています。送迎は送迎サービスを利用しています。また、訪問歯科も利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状は、運営推進会議の時に、地域の代表、民生委員、地域包括支援センター職員、家族で意見交換している状況です。	○	まずは、どのようなことを行っていかなければならないか情報収集を行わなければいけないと思っています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連絡すれば提携病院の医師(かかりつけ医)が、往診に毎週来てくれます。また、体調不良の時には、ホームの車で送迎を行い、すぐに病院へ通院する対応をしています。通院の際の状況は、家族にはその日には連絡をしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医については、ご家族が判断して、病院へ定期的に受診されている方はいます。ホームからは提携病院(長田病院)の医師に診察してもらいながら、薬を処方してもらってます。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	緊急時は、提携病院(長田病院)の看護婦に連絡を入れ、状況報告及び対応の確認、受け入れの調整をしています。看護職の出入りはないが、提携病院の医師が定期的にホームへ往診に来ている。	○	看護職の確保が必要であるならば、提携病院とも相談して対策を考えなければと思っています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院(長田病院)に入院している場合は、主治医と連携を図り、定期的に入居者の方の状況を確認して、退院出来る時期を調整しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携病院(長田病院)の医師より家族に対して、ホームでの生活は難しいことの説明を行ってくれています。その際には、長期病院での入院の受け入れをすることを家族の方に説明していただいています。職員には、終末期に対する考えを意識してもらうよう定期的にカンファでは議題にあげています。	○	職員の考えを考慮しながら、今後も話し合っていきたいと思っています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	提携病院(長田病院)の医師の判断により、ホームで生活が出来るか、出来ないかの判断を受けています。職員の意識の問題もあり終末期をホームで生活するより、病院へ入院することを家族には進めています。	○	職員との関係と同時に病院側の体制もあるため、調整して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移るときにはホームでの生活の状況、処遇などを、まとめて表にして家族に説明しています。但し、最近は、長田病院へ入院することがほとんどなため、病院の問い合わせに対して返答している状況です。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者によっては、些細な発言で気を悪くする方がおり、丁寧な言葉掛けをするように、注意しています。また、直接的に「トイレに行きましょう。」と言うのではなく、「ちょっとつきあってくれませんか。」と言い方をして、対応しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方の出来る限りの要望には対応しています。但し、家族が望まないことについては、ゆっくりと丁寧に説明をして出来ないことに対して納得してもらっています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買いたい物があったり、外に出たい等の希望があったときは、その場では出来なくても、後日調整して出来るように対応しています。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1度、カットボランティアの訪問があり、散髪を行っています。また、入居者の方によっては、近所の美容院へ付き添って行くこともあります。衣類については、自身で選べる方には選んでもらっています。職員が選ぶときには、いつも同じ服を着るのではなく、色々と選んで着てもらっています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、業者の食材を使って作っていますが、誕生日や月に何度かは普段食べない料理を職員が考えて、作っています。また、片付けの出来る入居者の方には、毎食後声をかけて手伝ってもらっています。職員は入居者の方と一緒に食べていますが、検食用として1人だけ同じ物を食べています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午後のおやつは、甘い物がとても喜ばれるため用意し出しています。嚥下障害のある方は、牛乳で溶かして食べてもらう対応をしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の方々の能力に応じて、トイレ内まで付き添い対応しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は、曜日、時間帯を決めて、入浴を実施しています。但し、長期間入浴をしていない方については、曜日を関係なく入浴してもらうよう対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に寝かす事はなく、夜は好きな時間に寝てもらうようにしています。ただし、本人がその調整が出来ないときには、職員が声をかけて定時に横になってもらうよう対応しています。また、日中は熟睡しないように、部屋に戻っても少ししたら声をかけ、みんなで生活してもらうようにしています。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に行っていた家事を行ってもらうよう、洗濯干し、取り込み、衣類たたみ、食器の片付け等を職員と一緒に行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のお金の管理が出来る入居者に限られますが、買い物しにお店へ行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよいときには、屋上に行き空を眺めたり、軽い体操をしています。職員の手があるときには、裏の公園へ行ったりして、小さな子供とふれあったり、花壇の花を見たりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力が得られる場合は、家族と食事を食べに行っている方はいます。出来ない方に対しては、気分転換を考え1時間程度ドライブをしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の考え(家族内不和等)があるため、現時点では連絡したいと要望があったときは、「連絡しておきます。」と対応させてもらっています。家族の同意が得られている場合は、電話、手紙の対応させてもらっています。また、あったことを家族に報告しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者の方々には、いつでも来て下さいと話しかけています。家族が帰るときは、入居者の方とお見送りをしています。関係があまりうまくいっていない家族の場合は、職員が一緒に入り話しているケースもあります。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての理解を行う指摘が評価の中で求められたため、職員に情報を提供して、理解をしてもらっている段階である。また、現時点で禁止の行為は行っていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が不穏な状態で他の方の部屋へ入室してしまう時は、一時的に閉めることがありますが、基本的には常に開けるようにしています。玄関については、全面道路に車が頻繁に走っているため、事故防止から、常時鍵がかけています。	○	状況にもよるため、職員と更なる調整をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は人員基準よりも多く職員を配置させ、入居者に対して配慮出来るようにしている。夜間帯についても、定期的に巡回を行い、状況の確認を行ってます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方々の状況を見ながら、個人の持ち物で危険と思われる物は、家族の方に持ち帰ってもらっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的にカンファレンスを開催して、各々に問題点を出してもらい、共通認識で解決出来るよう対応しています。また、出席できなかった職員にも会議録を作成して確認してもらうようにしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変が起きたときの、緊急連絡マニュアルを作成して、職員の応援、家族への報告等の対応が出来るようにしています。また、協力病院と連携を取って、すぐに入院が出来ない場合にも、職員増員、業務変更により、個別対応が出来るようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、上永谷消防署の方に来ていただいて、消防訓練(初期消火、通報、避難訓練)の実施をしています。また、隣接しているダイヤモンドマンションの住民の方々と親密に交流して、何かが起きたときも協力し合うよう話し合っています。消防設備点検は業者と契約して定期的に実施。非常用食料・備品も準備保管しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の方には、入居者の方の問題行動があったとき、逐一報告し対処方法についての了承を受けています。また、制限による入居者のストレスが感じないように配慮しています。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフからの些細な状況変化について、責任者に報告があがり、判断して家族へ連絡するようにしています。また、かかりつけ医に連絡を入れ、診察や往診の判断を仰ぎ、共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より出ている薬の説明書は、一冊のファイルにまとめていつでも見られるようにしています。また、薬手帳も作ってまとめています。服用による経過状況は、提携病院の医師と調整して継続の必要があるかの判断をしてもらっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	極力、薬には頼らないようにすることを念頭において、毎日10時はヨーグルト食べてもらっている。また、冷たい牛乳を飲んでもらったり、運動や散歩したりしている。薬を飲む場合でも、排便間隔を見ながら、少ない量で対応するようにしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きをしてもらっています。自身で出来ない方は、職員が口腔ケアを行い、清潔の保持をしています。入れ歯の使用をしている場合は、夜間入れ歯洗浄剤を使用して清潔にしています。また、定期的に訪問歯科を活用し、口腔状況を把握してもらっています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は十分に取ってもらうよう、適度にお茶やコーヒーを提供しています。食材は、業者より取り寄せており、栄養のバランスは取れていると思います。また、摂取量は処遇チェック表として管理しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルは作ってあります。入居者の状況変化により、早期の時点で病院へ通院する対応はしています。また、スムーズに提携病院に入院出来るよう、病院とも調整しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食器洗い洗浄機を使用して洗浄、乾燥しています。食中毒対策として、魚、肉用のまな板を準備し、毎日届けてくれるタイヘイの食材の使用しています。また、食材が余ったときには、日付の記入した紙をはり、冷凍保存することで対策を取っています。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関から、見たときに共用スペースが暗い印象を与えないように明るい状況にしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、大きな窓があり、日差しが直接取り込められて、朝から夕方まで明るい空間となっています。入居者の所有している絵を飾ったり、玄関や台所の上部にさりげなく季節を感じる物を配置して、話題の種にしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ソファー、食事用テーブル、可動畳を配置して、入居者各々が、好きな場所で過ごせるようにしています。日当たりの良いときには可動畳の上で、横になる入居者もいます。テーブルの席順についても、極力気の合う入居者が隣同士に座るようにしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに、家で使っていた家具や道具を持ってきて下さいと説明しています。また、テレビ、冷蔵庫、ソファーなど入居者自身が管理でき、危険が無ければおくことも許可し、部屋でくつろげるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時は、共用スペース、居室の窓を開放して換気をしています。夏の時期は、極力冷房を入れずに窓を開ける対応をしています。冬の時期も暖かい日中は、暖房を使用せず重ね着してもらっています。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故が起きないよう、出来る限りの対策は、家族の了承を得ながら行っています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員と共に、一緒にゆっくりと行えるものを用意して、楽しく暮らせるようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上で家庭菜園を作り、キュウリ、トマトなどの収穫を楽しみむ機会を作っています。その際に、軽く体操したり、歩いたりして気分転換をしています。また、個別でベランダにて、花を植えて園芸を楽しまれている入居者もいます。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者が何を考え、何を求めているか見極め、知ること。そのことで理解を深め、利用者の立場になり、よりよいケアが出来ればと思う。・個人を尊重し、思いやる心が大切だと思う。・スタッフそれぞれの思いで行動するのではなく、職員全体が同じ意識を持ち、情報交換し共有することで、利用者が安全、安心して生活できるよう共通のケアを目指していきたい。・利用者１人１人が安心して生活出来る様、時には迅速又、時には穏やかに楽しく、その人にあった介護が出来る様心がけている。・利用者の笑顔多く毎日過ごして頂ける様、各人別に対応出来る様、工夫したいと、又、明るい自分でいるよう心がけています。・各職員の考え方(仕事の対する)等を知り、職場(仕事)に生かせる様、勉強したいと考えています。・利用者さんとの会話(話しを聞いてあげたい。)・利用者さんが笑顔でいられる様に。・利用者１人１人と声掛けし、かならず１日最低１回はふれあう事。笑顔多く見られる事。・認知だからこそ、１つ１色々な事をさせて頂きたい。一緒にして行きたいといつも思う。・個別対応時にコミュニケーションを計っている。・利用者が受け身的な会話の仕方ではなく、会話がはずむような話題で話しを引きだして、おしゃべり出来るような接し方対応を心がけている。・利用者の方が楽しく生活が送れるよう自分自身が楽しく仕事に取りくむ様にしている。・日々の利用者の状態をよく観察し、ふとしたしぐさなど特変につながる予兆を見とれるよう努力している。・行動が規制されて生活している中で、いかに楽しく過ごせるか考えている。プライドを傷つけないように丁寧な会話をすることを心かけている。

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	日限山ホーム
（ユニット名）	2階
所在地（県・市町村名）	横浜市港南区日限山一丁目66番6号
記入者名（管理者）	瀧本　幸子
記入日	平成　20　年　11　月　1　日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	まずは、ホーム内での生活を、穏やかに過ごしていただく事を一番に考えています。その中で、地域の活動に参加することにより生きがいや楽しみが増えていくこと目的として、合わせて理念と考えています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開所当初から「お互い様」を合い言葉にして、職員同士協力し合って入居者が穏やかに過ごしてもらえるようにしています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方々が、集う年3回の「観桜会」「納涼祭」「クリスマス忘年会」の際には、地域住民の方々、ボランティアの方々を招待して、地域に根ざして成り立っていることをお知らせしています。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のマンションの住民の方々、地域住民の方、民生委員の方々皆様と声をかけあい、一部の方は、花の様子を見に、ホーム内にちょくちょく来てくれます。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日限山地区で老人の方々が集う会合には、毎回参加しています。隣接している日限山公園で行われる盆踊りや幼稚園の運動会にも招待を受け、出席しています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現時点では、活動をしていないのが現状です。	○	業務内容を考え直して、地域に対して対応できる職員を養成して行きたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回2回目の自己評価、外部評価となるため、今回職員に対してこういう事を行っていると情報を流している状況です。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進運営会議において、自己評価、外部評価を行うことをお伝えしたところであり、これから意義について詰めて行くことになると思います。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現時点では行き来する機会は作っていません。	○	時間が作れる体制をつくり、区役所の担当者を情報交換する機会を作って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点では出来ていません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	現時点では出来ていませんが、現在、ホーム開所から4年目を迎え、介護福祉士の資格を取得するために勉強している職員が出てきており、今後関連法について考えて行く機会が出て来ると思います。	○	まずは、資料を確認して、職員に情報を伝えるようにしたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に、契約書、重要事項説明書の説明は行っています。契約以上に、家族との信頼関係を築けるよう入居後は、家族へホームでの利用者の状況、ホームの理念はよくお伝えしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内にも第三者評価委員を設けていますが、開所後ホーム内で家族との対応のみで友好な関係は出来ているとおもっています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が不安に感じることがある場合は、こまめに連絡を入れて、安心してもらうよう対応してます。また、ホームでの生活が慣れた後は、来訪時、状況を説明しています。現金についても支出があったときには説明を行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回、入居者、家族の方々が集まってイベントを行っています。その際に、ケアプランの説明を行い、意見要望を反映出来るようにしています。また、常に責任者は話しやすい状況を作り、気兼ねなく意見を言ってもらうように努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを開き、入居者の処遇以外にも意見を聞く機会を設け、職員間で対応できるものは、その場で対処しています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法的に定められている基準よりも多く人員を配置しています。また、職員から出勤時間の調整についても、出来ることは反映しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状は、退職する職員もなく、落ち着いた環境作りは出来ていると思います。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては、必要に応じて職員は参加しています。しかし、報告書を書いてもらっているのみで、発表の場は設けていません。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状はグループホーム協会に加入し、定期的に研修に参加しています。	○	近隣のグループホームとの交流を持つ機会を作っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人員配置を多くしているが、現状なかなか休み時間が作れない状況であります。休憩スペースがないため、目隠し用にスクリーンを購入しています。	○	職員の考えを聞き出し、妥協しあえる環境作りを作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人員の余剰はあるため、常勤職員は有給休暇を取りやすくしています。また、夜勤明け2日間は極力休めるよう勤務を組んで、健康管理が出来るようにしています。職員からの提案に対しては、すぐに出来ることは取り入れて実施するようにしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境に慣れるまでは、入居者本人の話をゆっくりと聞くように対応をしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が、ホームの職員を信頼して下さるまで、随時、入居者の方の状況を報告し、ホームとして受け入れていることを常に伝え、安心してもらうようにまずは行っています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方は、利用者本人をホームに入れてしまったことの、後悔があると思われるため、利用者の方が穏やかにホームで生活をされる状況をつくる事が大切だと思っています。そのことで家族には安心して利用して欲しいことを伝えています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、何度かホームの環境を見てもらい、既に入居者されてる方々と共に一時を過ごしてもらい、入居者本人が納得して入居することを家族の方には話してもらうよう事前に対応してもらっています。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	対等な立場として、集団、個々の際日常会話、身の上相談などをして信頼し会えるよう努めています。そのことにより入居者を職員が共に支え合う関係を築けるようになると思い、実践しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にも、職員として困っていることを伝え、現状一番良いと思っている対応を行っている事を理解してもらい、また、段々と老いていく入居者の方の状況を常に伝え、職員の苦労も分かっていただくようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	親子関係がうまくいっていない場合は、事前に訴えを職員が聞き出して不満を解消したり、家族が来訪時、職員が同席して入居者、家族が安心して会話が出来るように対応しています。あまり来訪されない家族については、状況変化が見られたときには、連絡をこまめにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者を訪ねてこられる方については、「いつでも来て下さい。」と声をかけています。特に、遠方に住まれている親族が来られたときには、職員が間に入り、近況を詳しく伝えるようにしています。	○	来訪される方が、家族の方が中心となるため、新しい人付き合いを作っていくことも考えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	穏やかな気持ちでホームでの生活が送れるように、食事の時には仲の良い方々が近くに座ってもらうなどの対応をしています。また、場に馴染まないときには、職員が孤立している方に声をかけ、話し(悩みや不満)を聞くようにしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近隣に住まれている家族の方が多く、顔を合わせることも良くあるため、退所後も友好な関係が築けるよう、特に入院時には迅速な対応を心がけています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で思いを上手く伝えられない方は、ゆっくりと話しを聞くようにしてしています。言いたいことは、ほぼ分かっているので、どう答えれば納得して落ち着いてもらえるか探りながら、対応しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	女性の方なら、家事を職員と一緒に行いながら、会話をすると、思い出話などで今まで知らなかった情報が得られることがあり、そのことを家族に確認すると、家族からも更なる情報が得られることあり、その人の人生感を役立てています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ないと決めつけるのではなく、何事も「どうですか。」と声をかけて自身が判断して参加してもらっています。その時の気分で普段行わないこともしてもらえることも多くあります。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	各々の入居者の方のその時点での対策はカンファレンスを行い実行していますが、長期的な介護計画の実施はしっかりと出来ていないのが現状です。	○	作った介護計画をいかに活用していくことを更に考え行かなければならないと思っています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな対策を行う際には、必ず家族には了承を得てから、介護計画や実行に移しています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、状況変化を記載しています。また、職員から責任者の方へ報告、提案があり、判断して家族連絡、職員への情報を伝達しています。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一番に考えているのは、入居者本人の状況変化によって、病院へ通院したり、気分転換を図れるような対応を素早く行えるようにしています。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日限山地区での集会には毎回参加しています。本を読むことを趣味としている方がいるため、近くの図書館へ本を借りることをしています。一緒に入居者の方と行くこともあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	一部の入居者の方は、提携病院（長田病院)のリハビリを受けています。送迎は送迎サービスを利用しています。また、訪問歯科も利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状は、運営推進会議の時に、地域の代表、民生委員、地域包括支援センター職員、家族で意見交換している状況です。	○	まずは、どのようなことを行っていかなければならないか情報収集を行わなければいけないと思っています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連絡すれば提携病院の医師(かかりつけ医)が、往診に毎週来てくれます。また、体調不良の時には、ホームの車で送迎を行い、すぐに病院へ通院する対応をしています。通院の際の状況は、家族にはその日には連絡をしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医については、ご家族が判断して、病院へ定期的に受診されている方はいます。ホームからは提携病院(長田病院)の医師に診察してもらいながら、薬を処方してもらってます。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	緊急時は、提携病院(長田病院)の看護婦に連絡を入れ、状況報告及び対応の確認、受け入れの調整をしています。看護職の出入りはないが、提携病院の医師が定期的にホームへ往診に来ている。	○	看護職の確保が必要であるならば、提携病院とも相談して対策を考えなければと思っています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院(長田病院)に入院している場合は、主治医と連携を図り、定期的に入居者の方の状況を確認して、退院出来る時期を調整しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携病院(長田病院)の医師より家族に対して、ホームでの生活は難しいことの説明を行ってくれています。その際には、長期病院での入院の受け入れをすることを家族の方に説明していただいています。職員には、終末期に対する考えを意識してもらうよう定期的にカンファでは議題にあげています。	○	職員の考えを考慮しながら、今後も話し合っていきたいと思っています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	提携病院(長田病院)の医師の判断により、ホームで生活が出来るか、出来ないかの判断を受けています。職員の意識の問題もあり終末期をホームで生活するより、病院へ入院することを家族には進めています。	○	職員との関係と同時に病院側の体制もあるため、調整して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移るときにはホームでの生活の状況、処遇などを、まとめて表にして家族に説明しています。但し、最近は、長田病院へ入院することがほとんどなため、病院の問い合わせに対して返答している状況です。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者によっては、些細な発言で気を悪くする方がおり、丁寧な言葉掛けをするように、注意しています。また、直接的に「トイレに行きましょう。」と言うのではなく、「ちょっとつきあってくれませんか。」と言い方をして、対応しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方の出来る限りの要望には対応しています。但し、家族が望まないことについては、ゆっくりと丁寧に説明をして出来ないことに対して納得してもらっています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買いたい物があったり、外に出たい等の希望があったときは、その場では出来なくても、後日調整して出来るように対応しています。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1度、カットボランティアの訪問があり、散髪を行っています。また、入居者の方によっては、近所の美容院へ付き添って行くこともあります。衣類については、自身で選べる方には選んでもらっています。職員が選ぶときには、いつも同じ服を着るのではなく、色々と選んで着てもらっています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、業者の食材を使って作っていますが、誕生日や月に何度かは普段食べない料理を職員が考えて、作っています。また、片付けの出来る入居者の方には、毎食後声をかけて手伝ってもらっています。職員は入居者の方と一緒に食べていますが、検食用として1人だけ同じ物を食べています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午後のおやつは、甘い物がとても喜ばれるため用意し出しています。嚥下障害のある方は、牛乳で溶かして食べてもらう対応をしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の方々の能力に応じて、トイレ内まで付き添い対応しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は、曜日、時間帯を決めて、入浴を実施しています。但し、長期間入浴をしていない方については、曜日を関係なく入浴してもらうよう対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に寝かす事はなく、夜は好きな時間に寝てもらうようにしています。ただし、本人がその調整が出来ないときには、職員が声をかけて定時に横になってもらうよう対応しています。また、日中は熟睡しないように、部屋に戻っても少ししたら声をかけ、みんなで生活してもらうようにしています。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に行っていた家事を行ってもらうよう、洗濯干し、取り込み、衣類たたみ、食器の片付け等を職員と一緒に行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のお金の管理が出来る入居者に限られますが、買い物しにお店へ行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよいときには、屋上に行き空を眺めたり、軽い体操をしています。職員の手があるときには、裏の公園へ行ったりして、小さな子供とふれあったり、花壇の花を見たりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力が得られる場合は、家族と食事を食べに行っている方はいます。出来ない方に対しては、気分転換を考え1時間程度ドライブをしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の考え(家族内不和等)があるため、現時点では連絡したいと要望があったときは、「連絡しておきます。」と対応させてもらっています。家族の同意が得られている場合は、電話、手紙の対応させてもらっています。また、あったことを家族に報告しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者の方々には、いつでも来て下さいと話しかけています。家族が帰るときは、入居者の方とお見送りをしています。関係があまりうまくいっていない家族の場合は、職員が一緒に入り話しているケースもあります。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての理解を行う指摘が評価の中で求められたため、職員に情報を提供して、理解をしてもらっている段階である。また、現時点で禁止の行為は行っていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が不穏な状態で他の方の部屋へ入室してしまう時は、一時的に閉めることがありますが、基本的には常に開けるようにしています。玄関については、全面道路に車が頻繁に走っているため、事故防止から、常時鍵がかけています。	○	状況にもよるため、職員と更なる調整をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は人員基準よりも多く職員を配置させ、入居者に対して配慮出来るようにしている。夜間帯についても、定期的に巡回を行い、状況の確認を行ってます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方々の状況を見ながら、個人の持ち物で危険と思われる物は、家族の方に持ち帰ってもらっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的にカンファレンスを開催して、各々に問題点を出してもらい、共通認識で解決出来るよう対応しています。また、出席できなかった職員にも会議録を作成して確認してもらうようにしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変が起きたときの、緊急連絡マニュアルを作成して、職員の応援、家族への報告等の対応が出来るようにしています。また、協力病院と連携を取って、すぐに入院が出来ない場合にも、職員増員、業務変更により、個別対応が出来るようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、上永谷消防署の方に来ていただいて、消防訓練(初期消火、通報、避難訓練)の実施をしています。また、隣接しているダイヤモンドマンションの住民の方々と親密に交流して、何かが起きたときも協力し合うよう話し合っています。消防設備点検は業者と契約して定期的に実施。非常用食料・備品も準備保管しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の方には、入居者の方の問題行動があったとき、逐一報告し対処方法についての了承を受けています。また、制限による入居者のストレスが感じないように配慮しています。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフからの些細な状況変化について、責任者に報告があがり、判断して家族へ連絡するようにしています。また、かかりつけ医に連絡を入れ、診察や往診の判断を仰ぎ、共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より出ている薬の説明書は、一冊のファイルにまとめていつでも見られるようにしています。また、薬手帳も作ってまとめています。服用による経過状況は、提携病院の医師と調整して継続の必要があるかの判断をしてもらっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	極力、薬には頼らないようにすることを念頭において、毎日10時はヨーグルト食べてもらっている。また、冷たい牛乳を飲んでもらったり、運動や散歩したりしている。薬を飲む場合でも、排便間隔を見ながら、少ない量で対応するようにしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きをしてもらっています。自身で出来ない方は、職員が口腔ケアを行い、清潔の保持をしています。入れ歯の使用をしている場合は、夜間入れ歯洗浄剤を使用して清潔にしています。また、定期的に訪問歯科を活用し、口腔状況を把握してもらっています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は十分に取ってもらうよう、適度にお茶やコーヒーを提供しています。食材は、業者より取り寄せており、栄養のバランスは取れていると思います。また、摂取量は処遇チェック表として管理しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルは作ってあります。入居者の状況変化により、早期の時点で病院へ通院する対応はしています。また、スムーズに提携病院に入院出来るよう、病院とも調整しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食器洗い洗浄機を使用して洗浄、乾燥しています。食中毒対策として、魚、肉用のまな板を準備し、毎日届けてくれるタイヘイの食材の使用しています。また、食材が余ったときには、日付の記入した紙をはり、冷凍保存することで対策を取っています。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関から、見たときに共用スペースが暗い印象を与えないように明るい状況にしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、大きな窓があり、日差しが直接取り込められて、朝から夕方まで明るい空間となっています。入居者の所有している絵を飾ったり、玄関や台所の上部にさりげなく季節を感じる物を配置して、話題の種にしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ソファー、食事用テーブル、可動畳を配置して、入居者各々が、好きな場所で過ごせるようにしています。日当たりの良いときには可動畳の上で、横になる入居者もいます。テーブルの席順についても、極力気の合う入居者が隣同士に座るようにしています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに、家で使っていた家具や道具を持ってきて下さいと説明しています。また、テレビ、冷蔵庫、ソファーなど入居者自身が管理でき、危険が無ければおくことも許可し、部屋でくつろげるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時は、共用スペース、居室の窓を開放して換気をしています。夏の時期は、極力冷房を入れずに窓を開ける対応をしています。冬の時期も暖かい日中は、暖房を使用せず重ね着してもらっています。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故が起きないよう、出来る限りの対策は、家族の了承を得ながら行っています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員と共に、一緒にゆっくりと行えるものを用意して、楽しく暮らせるようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上で家庭菜園を作り、キュウリ、トマトなどの収穫を楽しみむ機会を作っています。その際に、軽く体操したり、歩いたりして気分転換をしています。また、個別でベランダにて、花を植えて園芸を楽しまれている入居者もいます。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者が何を考え、何を求めているか見極め、知ること。そのことで理解を深め、利用者の立場になり、よりよいケアが出来ればと思う。・個人を尊重し、思いやる心が大切だと思う。・スタッフそれぞれの思いで行動するのではなく、職員全体が同じ意識を持ち、情報交換し共有することで、利用者が安全、安心して生活できるよう共通のケアを目指していきたい。・利用者１人１人が安心して生活出来る様、時には迅速又、時には穏やかに楽しく、その人にあった介護が出来る様心がけている。・利用者の笑顔多く毎日過ごして頂ける様、各人別に対応出来る様、工夫したいと、又、明るい自分でいるよう心がけています。・各職員の考え方(仕事の対する)等を知り、職場(仕事)に生かせる様、勉強したいと考えています。・利用者さんとの会話(話しを聞いてあげたい。)・利用者さんが笑顔でいられる様に。・利用者１人１人と声掛けし、かならず１日最低１回はふれあう事。笑顔多く見られる事。・認知だからこそ、１つ１色々な事をさせて頂きたい。一緒にして行きたいといつも思う。・個別対応時にコミュニケーションを計っている。・利用者が受け身的な会話の仕方ではなく、会話がはずむような話題で話しを引きだして、おしゃべり出来るような接し方対応を心がけている。・利用者の方が楽しく生活が送れるよう自分自身が楽しく仕事に取りくむ様にしている。・日々の利用者の状態をよく観察し、ふとしたしぐさなど特変につながる予兆を見とれるよう努力している。・行動が規制されて生活している中で、いかに楽しく過ごせるか考えている。プライドを傷つけないように丁寧な会話をすることを心かけている。